

一 次の【文章Ⅰ】は藤原正彦『国家の品格』の一部で、【文章Ⅱ】は鳥飼玖美子『なんで英語、勉強すんの?』の一部です。これらを読んで、下の問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

私がアメリカで教えていた当時、アメリカの大学生たちはろくな英語を書けませんでした。宿題の添削をしていると、あまりにも英語がひどいので、数学そっちのけで英語のチェックをしてくれたいです。

その後、「ポテト」の綴りを間違えて笑われた副大統領がいましたが、私は驚きませんでした。懐かしく思いました。なぜそんなに英語が出来ないのか学生に尋ねてみると、「英語の時間にタイプを習っていた」と言いました。なぜ英語、「A」彼らにとっての国語の時間にタイプを教えたのでしょうか。言い分はきつこうです。「アメリカの国民は、高校なり大学なりを卒業して社会に出たら、必ずタイプを打つ。「B」、そのタイプを英語の時間に教えることは有用である。」

かくしてアメリカの多くの高校では、国語の単位に代えてタイプの単位を取ってもよいことになりました。その結果、思惑通りにタイプは打てるようになりました。「C」打つべき英語の方が崩壊してしまいました。一九七〇年代の後半になると、海軍の新兵さんの二五%が武器の取扱書を読めなくなっていました。さすがにアメリカ政府もあせって、もっと基礎・基本の教育をきっちりやろうという流れに変わりました。

アメリカ人のすべてが社会に出たらタイプを打つ。だから、タイプは出来なければいけない。ならば学校で教え、みなぎタイプを打てるようにしましょう。これは正しい論理です。正しい論理を追求していつて、惨憺たる結果を招いたわけです。

アメリカのエリートは、アメリカ人の英語を潰すためにこんなことを思いついたわけではありません。一生懸命に考えて考えて、その果てにたどり着いた結果がこの程度だった。

② 愚行は繰り返されます。③ いま、アメリカの小中学校約二万校で、株式投資を教えているそうです。株式投資と言っても、本当に株を買うわけではありません。例えば今日、ソニーの株を三千株買おうと仮定する。何度か売り買いをして、三ヶ月後なら三ヶ月後と決めて、その間のパフォーマンスを競うわけです。そういうことを小学生、中学生がやっている。

アメリカの教育者たちは、それを④【】しています。「小学生たちが新聞の経済欄に目を通すようになった」。それだけではない。「株価値にまで目を通すようになった」「社会に目が開かれた」と言います。

英語にどういう表現があるのかは知りませんが、日本語ではこういう場合になんと言うかはつきりしています。「付ける葉がない」です。

小学生が新聞の経済欄なんか目を通す必要はありません。ましてや株価値に目を通す必要などまったくない。

問一 空欄【A】～【C】に入る言葉として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を二度用いてはなりません。

ア したがって      イ つまり  
ウ ところが      エ さて

問二 部①について、「惨憺たる」とは、「見ていられないほど痛ましい様子」のことを言いますが、具体的にどのようなことを指してこのように言っていますか、説明しなさい。

問三 部②「愚行」とは、「おろかな行動」という意味ですが、どのようなことが繰り返されていると言っているのですか、解答欄に続くように一〇字以内で抜き出して答えなさい。

問四 部③とありますが、「アメリカの教育者たち」はどのような効果を期待していますか。説明しなさい。

もつとはつきり言うのと、社会に目を開く必要すらない。

そんな暇があつたら漢字を、国語をきちんと学び、足し算、引き算、掛け算、割り算、分数、小数をきちんと学ぶことです。この方が圧倒的に重要であつて、経済や社会のことを考える必要などありません。

アメリカの悪口を随分言いましたが、日本だって似たようなものです。例えば二〇〇二年から始まった「決定版ゆとり教育」によって、現在、全国の九割以上の小学校で英語が教えられています。私に言わせれば、小学校から英語を教えることは、日本を滅ぼす最も確実な方法です。

公立小学校で英語など教え始めたから、日本から国際人がいなくなります。英語というのは話すための手段に過ぎません。国際的に通用する人間になるには、まずは国語を徹底的に固めなければダメです。表現する手段よりも表現する内容を整える方がずっと重要なのです。英語はたどたどしくても、なまっけていてもよい。内容がすべてなのです。そして内容を豊富にするには、きちんと国語を勉強すること、とりわけ本を読むことが不可欠なのです。

私にも苦い経験があります。ケンブリッジ大学で研究生活を送っていた時のことです。数学のノーベル賞と言われるフィールズ賞を取ったある大教授と会つて、自己紹介をしました。すると、挨拶もそこそこに、その大教授はこう訊いてきました。

「夏目漱石の『こころ』の中の先生の自殺と、三島由紀夫の自殺とは何か関係があるのか」

私はもちろん、『こころ』も三島の主要な作品も読んでいましたが、こんな質問にいきなり答えられるだけの用意はありません。しかもそれを英語で説明しなければならぬ。武士道か何かを持ち出して、「死の美学」について乏しい知識を動員して、何とかごまかしたのですが、彼が納得したかどうか自信はありません。

世界のトップ・エリートというのは、そういうことをいきなり訊いてくるのです。イギリスの歴史やシェイクスピアについては決して訊いてこない。日本の文学や歴史についての、非常に具体的な質問をぶつけてくる。だから、日本人としての教養をきちんと身につけていないと、会話がはずまない。

日本のある商社マンからこんな話を聞きました。ロンドン駐在の商社マンが、あるお得意さんの家に夕食に呼ばれた。そこでいきなり、こう訊かれたそうです。

「縄文式土器と弥生式土器はどう違うんだ」

哑然としていたと、

「元寇というのは二度あつた。最初のと後のとでは、何がどう違ったんだ？」

そう訊かれたそうです。その人が言うには、イギリス人には人を試すという陰険なところがあつて、こういう質問に答えられないと、もう次から呼んでくれないそうです。「この人は文化の分からないつまらない人だ」となる。すると商談も進まなくなってしまうらしい。

ところが最近の若い人たちは、内容は何もないのに英語はペラペラしゃべるから、日本人の中身が空っぽである

ことがすつかりバレてしまいました。内容がないのに英語だけは上手いという人間は、日本のイメージを傷つけ、深い内容を持ちながら英語は話せないという大勢の日本人を、無邪気ながら冒瀆しているのです。「内容ナシ英語ペラペラ」は海外では黙っていて欲しいくらいです。

初等教育で、英語についてやす時間はありません。とにかく国語です。一生懸命本を読ませ、日本の歴史や伝統文化を教え込む。活字文化を復活させ、読書文化を復活させる。それにより内容を作る。速回りでも、これが国際人をつくるための最もよい方法です。

## 【文章Ⅱ】

英語などの外国語でコミュニケーションをすれば、そこに「文化」が入り込めます。これを「異文化コミュニケーション」と呼ぶのは、異なる文化同士で何かを伝え合うには、お互いの文化の違いを意識しないとコミュニケーションが成立しないからです。

「文化」とは、料理や服装や建築など「目に見える文化」だけでなく、その言葉を話す人々が共有している価値観や常識など「目に見えない文化」もあります。

たとえば、「公平」とは何かは、文化によって違ってきます。平等に競う機会があることが「公平」だと考える文化もあれば、「競争」は良くないと考える文化もあります。「個人」を優先させる文化もあれば、個々の人間よりは「集団」を大切にする文化もあります。黙っているのは負けだと考える文化もあれば、「沈黙は金」だと尊ぶ文化もあります。一つの文化について、この文化はこうだ、と決めつけてしまうのは危険ですが、それぞれの文化に違いがあることは知っておく必要があります。

これは日本だけの問題ではありません。

2020年に放送されたアメリカの連続テレビ・ドラマに、『エミリー、パリへ行く』があります。アメリカ人女性が急にパリへ転勤になり、フランス人ばかりの職場で働き、⑥【】する話です。「パリに来たのに、フランス語ができないって、どういうつもり？」とバカにされ、必死に覚えて使ってみると、発音が変わり、使い方が間違っている、と笑われ、アメリカ式にやろうとすると、「ここはアメリカじゃない、フランスなんですよ」と注意されます。そんな異文化摩擦に苦しむエミリーの日々が、ユーモアたっぷりに描かれています。

2020年に世界中で大人気となった『愛の不時着』でも、言語と文化を共有しているはずでありながら、北朝鮮と韓国では、言葉の使い方や習慣が相当に違う様子が映し出されています。パラグライダーが竜巻に会い、軍事境界線を越えて北朝鮮領土内に不時着してしまった財閥令嬢で実業家のセリは、韓国とは全く違う暮らしをしている人々と知り合い、驚いたり戸惑ったりしながら現地の生活に溶け込んでいきます。まさしく異文化体験であり異文化交流ですが、その際に役立つのがセリのコミュニケーション能力です。

問五 空欄【④】【⑥】に入るのに最も適当な四字熟語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 朝三暮四    イ 以心伝心    ウ 意味深長  
エ 自画自賛    オ 四苦八苦

問六 部⑤とありますが、それは何ですか。本文から九字で抜き出しなさい。

なんとか自分を理解してもらおうと、ともかく喋り、相手を知ろうと質問をします。軍事境界線に近い村に住む女性たちにシエークスピアの悲恋物語「ロミオとジュリエット」の例を出しても、「それ、何？」とキョトンとされてしまいますが、「織姫と彦星」の話に変えたりして、めげません。コミュニケーションをとろうとする意欲が強いのです。

最初は、変な人、非常識な人、とセリを毛嫌いした村の女性たちも、次第に距離を縮めるようになり、北と南の罵り言葉を教え合ったりします。

注1 タイプ——文字を打つこと。

注2 陰険——表面はよくみせかけて、かげでこっそり悪たくみをするようす。

注3 冒瀆——けがすこと。

## 二

次の文章は、乾ルカの『明日の僕に風が吹く』の一部である。川嶋有人は医師になる夢を持っていたが、同級生の道下麗奈が倒れたときにうまく助けられなかった。そのことで長い間ひきこもり生活を送っていたが、高校に進学し、再び学校生活を送るようになった。ある日、道下から突然電話があり、二人で会うことになった。これを読んで、下の問いに答えなさい。

「……………ごめんなさい」

「なに、川嶋くん？」

「僕が……………あの日よけいなことをしたから」

ぐっと（A）が詰まって、言葉が途切れた。空咳を繰り返し、詰まりを取り除こうとするも上手くいかない。目尻が熱くなってくる。

「僕……………せいで。なにもわかってないのに……………出しゃばって」顎先が胸元につくくらいに、ますます深く（B）を垂れた。①「み、道下に取り返しのことかないこと……………」

②「聞えよがしの大きなため息がテーブルに落ちた。」

「やめてくれないかな」微かにではあるが、怒気を帯びた声だった。「あのとき、真っ先に駆けつけてくれたこと、私は感謝してるよ。それについては全然怒ってないの。親を通して、何度も言ってるんだけどな。聞いてない？ 一番の落ち度は私にあるの。自己管理できる年齢だったもの」

有人は顔を上げられない。道下が長く喋っている間、ラ行の不自然さを数えてしまう。「ねえ、聞いているの？」華奢な指が、テーブルを叩いた。「私が川嶋くんに会いたかったのはね、あの日のお礼を直接言いたかったからなんだよ」

③「世界の動きがすべて静止した気がした。道下は繰り返した。」

「聞いている？ お礼を言いたかったの、あの日のこと。だから、どうしても会いたくて、電話しました」

「……………お礼？」

「そっだよ。女子たちが気味悪がって遠巻きに見ているとき、川嶋くんが走ってくるのが見えた。川嶋くんだけが、あのときの私に近づいてくれた。それがどんなに嬉しかったかわかる？ わからないよね。わからないから謝ってるんだよね。本当に嬉しかったんだ」

④「でも……………エビペンはわかんなかったし、先生やお父さんにも怒られたし……………」

「エビペンが伝わらなかったのは、仕方ないと思ってる。転入してきて間もなかったし。私の体質が周知されていたら、違ったかもね。先生、怒ってた？ 誰？ 担任の先生？ いつ？」

「担任……………救急車を待つるとき。怒鳴られた」

問七 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んだ後に、児童が話し合いました。本文の内容と合わない発言を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 児童A—文章Ⅰを読むと、私たちは小学校のうちに英語よりも学ぶべきことがあるということですよ。

イ 児童B—小さいときは、まず自国の言葉や文化をはじめとした教養をしっかりと身につけるのが大切だと言っているのだと思います。

ウ 児童C—英語は多少不得意でも、話す内容がしっかりしていることが大事だと言っているのですよね。

エ 児童D—その上でスペルミスをなくして英語がきちんと書けて、上手にきちんとした英語が話せる人になろうと言っているのですね。

オ 児童E—文章Ⅱを読むと、お互いの文化の違いを意識しないとコミュニケーションは成り立たないと書いてあります。

カ 児童F—お互いの文化を知ること必要だけれど、コミュニケーションをとろうとする意欲が大切だと伝えていると思います。

問一 線部③④の語句の意味として最も適当なものを、それぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

① 聞えよがし

ア 有人には聞こえないようにした。

イ 有人にだけ聞こえるようにした。

ウ 有人以外にも聞こえるようにした。

エ 有人にわざと聞こえるようにした。

② うなだれた

ア 力なくうつむいた。

イ 下を向いて考え込んだ。

ウ やる気がなくぼんやりした。

エ 怒りを抑えた。

問二 空欄（A）～（D）に当てはまる言葉として適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ただし、同じ記号は一度しか使えないものとする。

ア 肩 イ 頭  
ウ 目 エ 喉

「意外だな。病院にお見舞いに来てくれたけど、川嶋くんを怒っている雰囲気なんてなかったよ。救急車待ちのときなら、焦ってただけなんじゃないかな。そういうとき、声が大きくなる人って多いでしょ」

言われてみればそうかもしれない。だが、あの日のことは極力思い出したくないのだった。うなだれたままでいると、道下の指がひときわ強くテーブルに打ちおろされた。

「私は怒ってるけどね」

びっくりと（C）が震えた。有人の前のフラベチーノに刺さったストローまでが、ころりと動いた。

「もちろん、あの日についてじゃない。ついさっき別のことで頭にきた」

下を向きながら、恐る恐る視線だけを上げて道下を窺う。

道下は、小さくなっている有人を、その場に縫い留めるような（D）をしていた。

「川嶋くんが、勝手に私の人生決めたことを怒ってる」

「……僕、そんなこと」

してないという弁解も、道下は許さなかった。

「してるよ。さっき言ったでしょ。取り返しのつかないこと、って。思わず遮っちゃったけど、あれ、取り返しのつかないことしちゃって、ごめんなさいって言いたかったんだよね。文脈からして」

そのとおりである。有人は頷くしかなかった。道下はまたため息をついた。それからキャラメルフラベチーノのストローの先を咥えて、ついはむように飲んだ。

「川嶋くん、あの日を境に学校に来なくなっただよね。正確には、次の日登校したけれど早退して、それ以降ずっと。引きこもってるっていうのも聞いてたよ。川嶋くんのご両親が最初にお詫びにいらしたときに、教えてくれた」

道下は声を荒げなかったが、特別低めもなかった。ひきこもってる、という響きが有人に突き刺さり、次に周りの視線の棘が続いた。まさに針のむしろだった。だが道下は一切の忖度をしなかった。

「私は学校に戻ったよ。正直、結構厳しかった。最初はみんな、体育館で気持ち悪い姿になって倒れた子が来たっていう顔をした。みんな、あんなの見たくなかったよね。わかる。私だって見られなくなかったし。しかもあのころは、今よりもはるかに回らなかつた。だからなおさら、気持ち悪がられた。でも私は、休まなかつた。早退もしなかつたし、ましてや引きこもるなんて。あふつ、笑っちゃうね」

有人は顔を上げた。道下はきれいなラインの顎を上げて、挑発めいた微笑みを浮かべた。

「川嶋くんが、いつまでもあの日のことを引きずっているなら、私は感謝しているんだってどうしても言いたかった。けれど、ここに来てもっと言いたいことができたよ。言っただい？」

微笑みながらも、道下の瞳の奥には憤りの炎が揺らめいていた。

「私と川嶋くんを一緒にしないで。取り返しがつかないお仲間、私を巻きこまないで。引きこもっちゃった川嶋

くんは、あの日が自分の人生を変えたくらいに思ってるかもしれない。取り返しがつかない、つまり、順当に過ごしていれば未来に得られるはずだったものを、あの日のせいで永遠に失ったと思っただけかもしれない。私の言語障害も、一生私の足を引っ張るものだと決めてかかっているんでしょ？ おあいにく様。違うから。こんなことで人生狂ったなんてへこたれるほど、弱くないの」

柔らかな頬をつたをすぼめて、キャラメルフラベチーノを一気に飲み、道下は空になったコップをとんとンテーブルに置いた。

「私はちゃんと生きてるし、やりたいことだっていっぱいある。駄目になったなんて一ミリも思っていない。でも川嶋くんは、自分と一緒に私の未来も駄目になったって決めつけた。それってすごく失礼だよ。まるで私が死んじやつたみたい。勝手に殺さないでくれる？」

店内の客がこちらを見ている。道下もだ。四方八方から照射される視線は、虫眼鏡で集められた光みたいだった。当たったところから有人の体をちりちりと焦がしていく。焦げ目は内部まで到達して、ずっと頭にこびりついていた核の部分をあぶりだす。

——未来なんてない。

思い続けてきたそれは、確かに死んでいるのと変わらない。

「決めつけるなら自分だけにしておいて。私は引きこもりするほど暇じゃないから」

圧倒されながら、有人は一つ尋ねた。

「……なんか将来のこととか、考えたりしてるの？」

「私は子どものころから同時通訳者になりたいと思ってるの。米原万里さんのエッセイをニューヨークにいたときに読んで、それからずっと変わらない。今もね」

同時通訳者。喋る仕事だ。ラ行はどうするのか。しかし道下は前を向き続けている。

「誰に言われたわけじゃない。私がそうなりたいたいんだから、怯んでなんていられない。ラ行は逆風だけど、私の推進力のほうが勝って信じてる」

道下はこんなに強い子だったのか。転入してからろくに関わりを持たないまま、あの日を迎えてしまった。道下の人となりも把握しきれいていないのに、有人は確かに、自分と同時に彼女の未来も奪われたと思込んでいたのだ。

「当ててみようか。私が電話をしたとき、後ろに人が何人かいる感じだった。親戚の方がいらしてたんじゃない？ 告別式のあとだもんね。で、電話は結構保留にされた。ということは、川嶋くんはそういう集まりと離れて、自分の部屋にいた。違う？」

頷くと、道下は「やっぱりね」と無感動に言った。

問三 部①とありますが、「道下」は「……」にどのような言葉が入ると考えていますか。本文から十五字以内で抜き出しなさい。

問四 部②とありますが、この時の「有人」の心情はどのようなものだと考えられますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 怒られるどころかお礼を言われたことで、自分の行為が無駄ではなかったことを喜んでいる。

イ 怒られると思っていたのに、思いがけずお礼を言いたかったと言われたことに対して驚いている。

ウ 怒られなかったのは良いが、お礼を言いたいと嘘をついてまで慰めようとすることに戸惑っている。

エ 怒られるとは予想していたが、お礼を言いたかったという皮肉を言われたことに傷ついている。

問五 部③とありますが、どういうことですか。説明しなさい。

「また引きこもっちゃうの？ そんな鬱気だね。なにも変わってない感じ。少なくとも、ここにいる川嶋くんは」  
道下の言葉は鋭い槍となつて、ことごとく有人の弱い部分に突き刺さつた。

「それもお似合いかもね。どうせお医者さんにはなれそうもないし」

道下は自分のトレーを手に立ち上がった。

「本当は、お礼を言うだけで終わりがつた。心から感謝してるんだもの。でも、それ以上に腹が立つちゃつたら。ごめんね。まあ見てて。十年後には、私は同時通訳者になってみせる。取り返しがつかない、といじけちゃつてる川嶋くんは、ご自宅のお部屋にいるかもだけど」

じゃあね、と並びの良い白い歯をこぼして背を向けた道下は、<sup>注4</sup>啞然とするほど<sup>注5</sup>颯爽としていた。デニムジャケットを着た背は伸び、顔は進む方を向いたまま、一度も振り返らなかつた。彼女はどんどん離れて、すぐに見えなくなつた。

④ 置いていかれたと有人は痛感した。

もう、影も形も見えないほどに差をつけられた。一緒に未来を失つたと思つていた相手に。

しかし、だ。有人は道下が飲めないと言つたダークモカチップフラベチーノを、<sup>注6</sup>猛烈な勢いですつた。本心から悪かつたと頭を下げたのに、ひどい言われようではないか？ 気に障つた内容はわからなくてもないが、ああまでこき下ろされる必要もない。特に最後なんて、ひどかつた。

有人にとつて、道下は『あの日』の大きい負を唯一共有する存在だつた。それなのに、失態を馬鹿にして散々嘲つたクラスメイトよりも、よほど厳しい言葉を投げかけてきた。

——私と川嶋くんを一緒にしないで。

⑤ 道下に啞れられたくない。

あの日と絶望を繋げていた糸の一本が、ぶちんと切れた気がした。

注1 華奢——姿・形が弱々しく感じられる様子。

注2 エビペン——アナフィラキシー（アレルギー症状）を一時的に弱める薬（注射）。

注3 付度——他人の気持ちをおしはかること。

注4 啞然——あきれてものが言えない様子。

注5 颯爽——人の姿・態度・行動が、さわやかで勇ましい様子。

注6 嘲つた——ばかにして笑つた。

注7 啞れられたくない——ばかにして笑われたくない。

### 三

部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

① 健やかに育っている。

② 案外大丈夫だつた。

③ 彼女の意見に賛同する。

④ その言葉は禁句だ。

⑤ 首脳会談を開催する。

⑥ 円のチヨツケイをはかる。

⑦ ニクガンで確認できる。

⑧ カい犬に手をかまれた。

⑨ 布を青くソめた。

⑩ 事件のイチブシジュウを見ている。

問六 部④とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 悪夢のような過去のことから目をそらし、未来のことを考えるべきだと言ひ聞かせようとする道下の姿から、自分が見捨てられたように感じたということ。

イ 過去の事件から完全に立ち直り、前向きに生きる道下の姿から、自分も道下と決別して人生をやりなおそうと決意したということ。

ウ 過去のことにいつまでもとられ続ける道下の姿から、自分に対する復讐を果たし、決別しようとしていると感じたということ。

エ 過去にとらわれることなく、未来だけを見て進んでいこうとする道下の姿から、自分の情けない現状との差を思い知らされたということ。

問七 部⑤とありますが、この時の「有人」の心情

はどのようなものだと考えられますか。説明しなさい。